

JPDA 6月臨時理事会議事録

日 時：令和元年6月18日（火）午後1時30分～午後5時00分

場 所：文京シビックセンター(障害者会館) 3階 会議室B

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事24名中20名（伊藤 透、井上 聡、青木（入江）あずさ、江藤正典、小川裕子、小川 亮、加藤（桑）和美、加藤芳夫、小原 司、鈴木智晴、高田知之、竹内清高、中越 出、中森恭平、永田麻美、信藤洋二、藤田 隆、三原美奈子、森 孝幹、山崎 茂）

監事2名中2名（池田 毅、時田秀久）

欠席届名（梅原 真、牛島志津子、畝野裕司、八木勇達）

議事録署名人： 伊藤 透、井上 聡
池田 毅、時田秀久

議事の経過

定款第31条(議長)により伊藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者22名を確認、定款第32条(決議)による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が伊藤透理事長、井上聡副理事長、池田毅監事、時田秀久監事の4氏であることを確認し、議事に入る。

第1号議案 事務局報告

渡邊事務局長より、資料に基づき**7月以降の定例理事会の進め方**についての報告があった。

- ・入会・退会等の審査や協会名義使用依頼等の理事会承認事項、役員の活動報告、次回の理事会案内等の必要な連絡事項は理事会の前半に済ませ、それ以降は全て委員会の活動報告に当てるが、収支報告（承認事項）や周年記念事業等の大きなイベントを優先させることとしたい。
- ・次年度の活動計画、予算案の作成は従来の11月からのスタートを早め、9月の理事会で事務局より各委員会に検討を依頼し、11月の理事会で検討することとする。
- ・次回7月の理事会では「アジアパッケージデザイン会議」と「第3回創作展」の進捗状況、また、9月の理事会では「JPDAデザイン学校」、「60周年の企画展」、「日本パッケージデザイン大賞2021」の進捗状況を報告いただくようお願いしたい。

また、渡邊事務局長より、2020年のJPDA創立60周年事業の確認（5/30の交流会で伊藤理事長が紹介した資料）と2019年～2020年の主な事業の月別スケジュールについての案内があった。

第2号議案「デザインを強くする」（以下「デ強」）委員会活動2019 第2回

パッケージデザインの価値共有とクリエイティブ系活動の統合

- ・井上副理事長より、P. 14～16の資料に基づき、クリエイティブ系・発信系・交流系に分かれた2018年度の委員会活動の総括があった。その中でも、今回はクリエイティブ系の活動を中心に話を進めたいとのオリエンテーションがあった。
- ・クリエイティブ系の活動とは「パッケージデザインに関するスタディとコンペティションを推進し、直接・間接を合わせて、優れたパッケージデザインとは何かを明らかにする活動」であり、JPDAが主催し、直接贈賞するという形で世の中に問う「日本パッケージデザイン大賞（以下JPDA大賞）」の、現時点での審査基準と授賞する際の評価のポイントについて、担当理事に説明を依頼した。

<JPDA大賞の審査基準>

- ・コンペティション委員会担当の小原理事より、現在のコンペの審査基準について以下の説明があった。

- ・現在の審査基準は数回前より、

① 挑戦性 ② 販売喚起力 ③ 商品特性のわかりやすさ ④ コンセプチュアルな視点の4つに加え、「新しさ」（挑戦性の中に含まれると思われる）、「美しさ」を審査の判断基準としているが、審査員に対しては詳細な説明は行っていない。

委員会の中では見直しを検討すべきとの意見が出ているが、いろいろ議論した末、上記の4+2に戻っているのが現状。

（以下、出席理事からの意見：敬称略）

- ・確かにここ数回審査基準は変えていないが、審査のしやすさを考慮して対面・セルフといった売り方の違いをカテゴリーに加えたり、平均的な作品ばかりが残るのを避けるために一次審査に3ポイント制（カテゴリー毎に一番良いと思う作品に3ポイントを与える）を導入したりという、審査方法における見直しは随時行っている。（山崎）
- ・各審査員は4+2の審査基準毎に評価しているのではなく、総合的に評価しているのが現状であり、その後発刊される出版物（年鑑）を見ると審査基準が曖昧であるととられるところもあるのではないかと。これは今後の検討事項でもあるが、購入者はある審査項目だけの評価で判断するわけではないと思う。（加藤）

<個々の入賞作品の評価ポイント>

- ・出版委員会担当の山崎理事より、『年鑑日本のパッケージデザイン2019』に掲載されている、大賞・金賞受賞作品の評価のポイントと二次審査の審査状況について説明があった。(個々の作品については年鑑を参照)
- ・審査員全員に審査についてのコメントをもらっているが、**審査基準それぞれの見方が審査員(グラフィック系のデザイナーとパッケージ系のデザイナー、また、ユーザ目線が強い特別審査員)によって異なっているのが現状**であり、大賞の「AIBO」のようにほぼ満場一致で決まった作品もある反面、かなり意見が割れた作品も少なくなかった。
- ・現在外部審査員を除けば全ての審査員は会員からの投票によって決められているが、今後は審査員の選出方法も検討した方がよいと思う。

(以下、出席理事からの意見：敬称略)

- ・審査によって異なる見方がある中で選出されていることは理解したが、小原理事から説明があった現在の4+2の審査基準があっても、やはり**全体の見た目**で判断されていると思う。(井上)
- ・日本パッケージデザイン大賞はデザイナーの感性(デザイナーの主観)で選ばれているところも一つの特長と言えるのではないだろうか。(伊藤)
- ・特別審査員のユーザー目線はわかるが、今回はそれが本質からずれた議論になったケースも多々あり、特別審査員の選別も慎重に行うべきだと思う。(小原)
- ・審査中、審査基準にある「販売喚起力」や「商品特性のわかりやすさ」はあまり議論されていないように思うが・・・。(小川亮)
- ・作品の売上数字等は審査の情報にはないので、やはり審査員の持っている感覚で審査されていると思う。(小原)
- ・確かに、「販売喚起力」については、作品の生い立ちや環境が異なる作品を同じ軸で評価するのは難しいのは事実である。(山崎)
- ・日本に存在している**3大パッケージデザインコンペ(JPDA・JPI・JPC)**の中で、JPDAは**唯一のデザイナーの感性で選ばれるコンペ**だと言うのはよいが、井上さんの仰るとおり、これからは**外部に対して「だから選んだんだ」と言えるように**していくことは必要だと思う。現在の4つの基準は当たり前の言葉過ぎる。その辺も考えていったらよいのではないか。(時田)
- ・この議論はここまでとして、「これからのパッケージデザインにとっての大事な価値は何か」についてグループ討議をお願いしたい。(井上)

(この後、4つのグループに分かれ、以下をテーマにグループ討議を行った。議事録では主な意見のみを記す。)

●これからのパッケージデザインにとっての大切な「価値」は何か？

- ・人の心を動かすところ（美しいイノベーション、ときめきイノベーション）
- ・「買いたくなるもの」、「手を伸ばしたくなるもの」が普遍的な価値
- ・生活を美しくするという視点が大切
- ・生活を豊かにし、社会にとって必要不可欠なもの

●次回JPDA大賞2021の審査基準は現状のままでよいか、それとも新しい基準を作るべきか？

- ・現在の4つの審査基準は基本的なものなので残すが、その上位概念として「見たことがない意外性がある」、「デザイナーの意思が感じられる」を加える。また、若いデザイナーを対象とした賞（びちびち賞）を新設してどうか。
- ・「新しさ」は「挑戦性」に含まれるとも考えられるので、現在の4つと「美しさ」を加えた5つを審査基準とする。但し、より解りやすい言葉に置き換えた方がよい。
「挑戦性」⇒チャレンジしていますか？、新しさがありますか？
「販売喚起力⇒買いたくなりますか？
「商品特性のわかりやすさ」⇒このまま残す
「コンセプトualな視点」⇒社会貢献していますか？社会責任を果たしていますか？
- ・そもそも誰のための賞なのか？パッケージデザインとは何か？の定義が必要。
- ・「新しさ」と「美しさ」（あるいは「イノベーション」、「クリエイション）」が上位概念であり、グラフィックデザイナーが理解しづらい4つの審査基準はパッケージデザイナーにとっての基本・基礎と考える。
- ・パッケージデザインの価値にとって販売面（売れること）は無視できない要素であることから、「ロングセラー賞」を新設してはどうか。
- ・JPDAの特性は多様性に富んでいることでもあるので、審査基準を「アート、社会人類学等の人の感性よりの視点」と「機能性、流通等を意識した視点」という複眼的なものにしてはどうか。
- ・JPDA大賞の価値を上げ、ブランド化を図るため、コンペティションの名称そのものを『パッケージデザイン ビエンナーレ』という呼称にしてはどうか。

(以下は井上副理事長のまとめ)

- ・現在の4つの審査基準はパッケージデザインのプロとして基本的な前提条件と言えるが、それに加えて、デザイナーのこだわり（わがまま）、人の感性的な部分をいかに評価基準として残していくかがこれからのテーマになるだろう。

- ・JPDA大賞の審査は「プロのデザイナーが選んでいる」だけではなく、だれに聞かれても、だれが答えても納得のいく解りやすい審査基準にしていくべきだと思う。
- ・今後のセミナー、勉強会、教育等では、その審査基準（=JPDAが考えるパッケージデザインの価値）をテーマにしたものにしていってはどうだろうか。
これについてはこれからの議論にしていきたい。

第3号議案 次回定例理事会開催の件

伊藤理事長より次回7月の定例理事会についての案内があった。

日時：令和元年7月10日（水）午後1時30分～6時00分※

場所：文京シビックセンター（区民会議室） 5階 会議室C

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前 TEL：03-3813-6211

※当日10:00～12:00に、同じ場所でAPD内容検討委員会が開かれます。関係者の方々はよろしくご参集ください。

以 上

（以 下 余 白）